

増淵龍夫名誉教授年譜略

(159)

- | | | |
|---------------|------|-----------------------------------|
| 大正 五年（一九一六年） | 三月三日 | 栃木県那須郡烏山町八九番地において清一郎・よねの次男として生れる。 |
| 大正 一一年（一九二二年） | 四月 | 烏山町立尋常小学校に入学する。 |
| 昭和 三年（一九二八年） | 三月 | 同校を卒業する。 |
| | 四月 | 栃木県立烏山中学校に入学する。 |
| 昭和 八年（一九三三年） | 三月 | 同校を卒業する。 |
| | 四月 | 東京商科大学附属商学専門部に入学する。 |
| 昭和 一一年（一九三六年） | 三月 | 同学同部を卒業する。 |
| 昭和 一二年（一九三七年） | 四月 | 東京商科大学本科に入学する。 |
| 昭和 一五年（一九四〇年） | 三月 | 同学同科を卒業する。 |
| | 四月 | 福島高等商業学校講師（常勤）を嘱託される（昭和一七年三月まで）。 |
| 昭和 一八年（一九四三年） | 二月 | 東京商科大学東亜経済研究所研究員を嘱託される。 |
| 昭和 一九年（一九四四年） | 六月 | 教育召集により歩兵第一七一二連隊に応召し同隊に編入される。 |

昭和四一年(一九六六年)五月	七月	歩兵第六六連隊補充隊に転属される。
昭和四五年(一九七〇年)七月	九月	召集解除となる(陸軍二等兵)。
	七月	東京産業大学東亜経済研究所参事を命ぜられる。
	六月	臨時召集のため宇都宮師管区歩兵第一補充隊に応召し、同隊に編入される。
	七月	熊本師管区第三補充隊に転属される。
	九月	復員する。
昭和二〇年(一九四五年)		
	九月	東京商科大学副手を命ぜられる。
昭和二年(一九四七年)	九月	東京商科大学研究員に任命され、経済研究所勤務を命ぜられる。
昭和三年(一九四八年)	三月	東京商科大学助教授に任ぜられ、経済研究所勤務を命ぜられる。
昭和四年(一九四九年)	五月	一橋大学講義、東京商科大学附属専門部講義を委嘱される。
昭和五年(一九五〇年)	四月	一橋大学経済学部助教授に配置換となる。
	八月	社会経済史学会理事となる。
昭和三年(一九五七年)	一月	一橋大学大学院経済学研究科担当を命ぜられる。
	四月	一橋大学経済学部教授に昇任する。一橋大学東京商科大学教授に併任される。
昭和三五年(一九六〇年)	四月	一橋大学社会学部教授に配置換となる。併せて大学院社会学研究科授業担当を命ぜられる。
	十一月	一橋大学経済学部教授に併任される。
昭和三七(一九六二年)三月		一橋大学より経済学博士の学位を授与される(学位論文「秦漢帝国成立過程の社会経済史的 研究」)。
昭和三八(一九六三年)四月		一橋大学評議員に併任される(任期更新をかさね昭和四四年六月まで)。
昭和四〇(一九六五年)八月		ウィーンで開催された第一二回国際歴史学会出席のため(報告題目 Characteristics of the United States of Chin and Han) ならびに学術視察のため西欧・東欧の諸国 及びソ連邦に出張を命ぜられる(三箇月間)。
昭和四一年(一九六六年)五月		一橋大学小平分校主事に併任される(昭和四三年四月まで)。
昭和四五年(一九七〇年)七月		一橋大学社会学部長に併任される。評議員に併任される(いずれも昭和四五年十二月まで)。

昭和五〇年（一九七五年）九月 一橋大学附属図書館長に併任される。評議員に併任される（いずれも昭和五三年九月まで）。
昭和五二年（一九七七年）三月 大学教員訪中団の一員として中華人民共和国を訪問する（二週間）。
昭和五三年（一九七八年）四月 一橋大学社会科学古典資料センター長に併任される（昭和五三年九月まで）。
昭和五四年（一九七九年）四月一日 停年により一橋大学を退官する。
四月二日 一橋大学名誉教授の称号を授与される。
五月 社会経済史学会理事を辞し、同学会顧問となる。

なお以上の外、次の諸大学より非常勤講師を委嘱された。

東京教育大学文学部、東京都立大学人文学部、岡山大学法文学部、東北大学文学部、国学院大学大学院経済学研究科、東京大学文学部、慶応大学経済学部、学習院大学大学院人文学研究科。

また、一橋大学附属図書館長として次の学外の諸委員会委員を委嘱された。

日本図書館協会大学図書館部会長、大学図書館国際連絡委員会資金委員長、国立大学図書館協議会「大学図書館改善」調査研究班主査、国立大学図書館協議会大学図書館基本問題特別委員会委員、国立大学協会図書館特別委員会委員、大学基準協会大学図書館研究委員会委員。